

他管だより



自然が子どもを鍛える

深浦町立大戸瀬中学校

校長 青木 清彦

平成18年4月、新米校長として大戸瀬中学校に赴任した日の感動は今でも忘れない。一番は生徒である。明るい笑顔と元気な挨拶、頭髪や服装が乱れている子は一人もいない。築25年をすぎた校舎の何と綺麗なことが、生徒が大事に使用してきた証である。なぜだろう？校長室に入ってその謎が解けた。そこに掲げられていた町民憲章である。

＜深浦町町民憲章＞

私たちは恵まれた自然の中で輝かしい歴史と香り高い伝統を大切にし心をあわせて明るく豊かで平和な「あずましい深浦町」をつくるためこの憲章を定め実践します

- 一、自然を愛し美しくさわやかな町をつくります
- 一、心と体を鍛え活力にみちた明るい町をつくります
- 一、伝統を守り未来を拓く文化の町をつくります
- 一、仕事にはげみ産業をおこし豊かな町をつくります
- 一、思いやりと助け合いの和やかな町をつくります

これを見たとき、「自然を見よ。そして自然が教える道をたどっていけ。自然はたえず子どもを鍛える」というフランスの思想家ルソーの言葉が浮かんだ。なるほど豊かな自然のなせる技か。山登りや魚獲り、子どもたちが自然の中で遊ぶことは、命あるものと対話することに他ならない。彼らが触れ合う草も木も虫も鳥も獣も、みんなそれぞれの命をもって生きているのだ。その触れ合いが彼らの心を鍛えてきたに違いないと確信した。

子どもは教師や親が教えようとしたものを学ばないで、教えようとしなかったところで何かを学び取るものだ。教師は生徒に知識や技術を教えることは出来るだろうが、それ以上のものを教えることは出来ない。真に教えるに値するものは「人間的なものか」であるはずだ。しかし、この場面で教育は完全に無力だということだと思う。これを補完するものが「自然」であり、地域社会であり、そして何よりもそこにおける「子ども集団」ではないだろうか。

深浦の豊かな自然と、素晴らしい生徒・教職員が、日々私を鍛えてくれている。感謝！



校舎全景



網起こし漁業体験